

6月25日に環境月間見学会を実施した。これは6月の環境月間の行事として毎年実施しているもので、今年味の素川崎事業所とJFEスチール千葉地区にご協力を戴いた。どちらも住居地区に隣接する事業所として環境保全に細心の配慮が払われていた(参加34名)。

## 味の素 川崎工場

同事業所は、全国で最も厳しい川崎市の基準を満たし、且つ川崎市や多摩川をはさんだ大田区などの近隣住民に配慮した環境保全活動に取り組んでいる。排気と排水データはテレメータを通して川崎市に常時報告されており、騒音や煙突の煙など、近隣の住民より苦情がでないように細心の注意が払われている。特に、製造しているCook Doなどの製品の性質上、鰹節やんにくの臭い、しょう油の焦げた臭いなど様々な臭いが発生するため、それぞれの臭いに応じた数多くの脱臭技術が用いられていることが印象的であった。

## JFEスチール 千葉地区

同地区にも、シアンや6価クロムなどに対し通常の10分の1以下という厳しい上乘せ条例が適用されている。同事業所では05年1月の水質に関する環境問題を認識し、環境管理体制強化と再発防止のために、迅速な情報発信(昼夜を問わず所長まで報告など)、環境管理部門の強化、自主管理体制の強化(協力会社を含む全従業員に教育の実施)など様々な対策が講じられているところであり、その内容についてご紹介戴いた。その一環として完成した環境異常抑止(環境情報公開)システムは12の煙突と7つの排水処理設備の環境データを1時間に1回のペースで更新し、見学者が自由に確認できる仕組みになっている。



倉谷 川崎事業所長による挨拶



環境異常抑止システム



説明を受ける参加者